

始める前のお願い

このパワーポイントに使われる子どもの写真は
東京家政大学ナースリールームと一般家庭と小西貴士氏（写真家）
の許可を得て使用しています。
写真の撮影や保存はご遠慮ください。

子ども理解と保育者の専門性

井桁 容子

保育SoWラボ代表

非営利団体コドモノミカタ代表理事

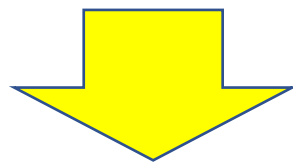
第1回参加者のレポートより

- ・ 柔軟な思考をもって
- ・ 保育想定外 の事が日々起きても、一緒に楽しみながら
環境設定を変えてみたり、子 どもと考えてみたい
- ・ 丁寧に尊厳をもって愛情深い保育を実践していきたい

子どもの特性の把握と理解がまなざし、
関わりを変える

自立したひととは？

失敗しない、何でも一人でできる人？



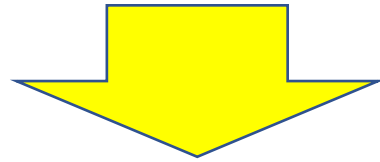
経験を次に活かせる人

上手くいかないときに

助けを求めることができる人

これからの教育が目指す

主体的・対話的な深い学び



保育者は

主体的に学んでいる？

対話的に関わっている？

保育を通して深く学んでいる？

安心安全な環境の保障

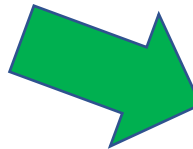


心的安全

(安心・安定)

物的安全

(もの・ひと・こと)



人的環境

(子ども、保育者など・家族・地域)

物的環境

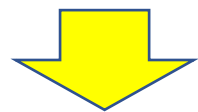
(施設・遊具・家庭・地域社会・自然)

感じ取って学ぶ環境

子どもの感じる力を信頼



保育者の禁止の言葉が少ない



環境の工夫で、
子どもの心が育つ



アフォーダンス理論の応用

ジェームス・J・ギブソン（心理学者・アメリカ）

（環境の要素が人や動物に与え、感情や動作が生まれること）







保育者としてのセンス・オブ・ワンダー



1歳児の食事の時に、すぐ近くに本やおもちゃがあっても
遊ばない理由は・・・

一人一人のニーズに合っているから

倉橋惣三

「生活を生活で生活へ」

(子どもは生活の中で学び生活を作る)



えっピソード

2歳で入園してきたT君のこと





これからの子ども主体の保育・教育の考え方

教えられらことを覚えてできるようになる

→ みんな同じ
意味記憶

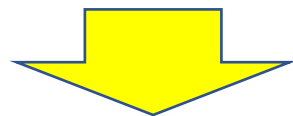


経験を通して感じ考え、分かる

→ その人だけのもの
エピソード記憶

人格の土台が作られる012歳児保育の重要さ

感情的、感覚的な『目から鱗』が大事



臨界年齢がある

感情は3歳までに育つ

心地よさから思いやりへ



「できない！」 「無理！」

ではなく

「どうしたらできるか」



「子どもって、
みごとに人間だ！」

佐伯胖・井桁容子共著
2021年（フレーベル館）

「子どもらしさ」とは

- ①ものごとに夢中になること
- ②不誠実さには進んで拒絶すること
- ③驚きを受け入れること
- ④柔軟に（こだわりなく）探索すること
- ⑤ものごとに「聴き入る」こと

（佐伯 胖：東京大学名誉教授）

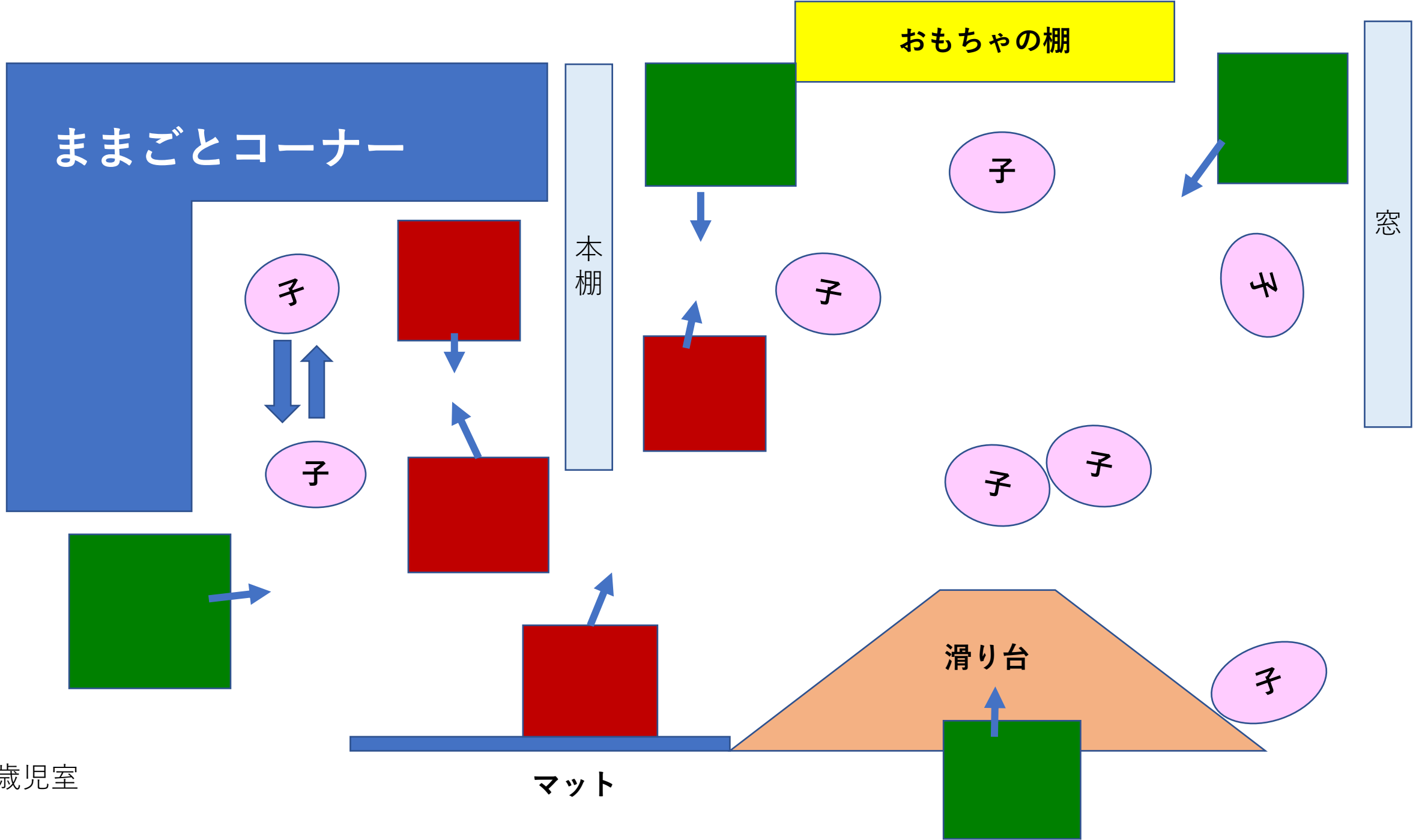
環境としての保育者

保育者の位置でその人の保育観が分かる？！

- ・ 子どもの特性が見え、子ども理解が深まるポジショニング
- ・ 保育に見通しがもてる視野の確保



共感的、応答的な関わりにつながる
おおよそその子どもの行為を洞察し、事故を防ぐ



これから
感じることを通して考える
人間らしさが
大切にされる
時代です

「センス・オブ・ワンダー」

レイチェル・カーソン 上遠恵子 訳 新潮社より

P 2 3

子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。
残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまえに
澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきもののへの
直観力をにぶらせ、あるときは、まったく失ってしまいます。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次にはその対象となるものについてもっと知りたいと思うようになります。

そのようにして見つけた知識は、しっかりと身につきます。

美しいと感じることは、「大切にする心」が育つ



こどもが、感じたことを

のびのびと表現できる

温かい関わりのできる保育者